

鉄系超伝導研究の最前線と今後の課題

日時: 6月9日 13:30~16:00

場所: 東北大学金属材料研究所 講堂

13:30~14:30 黒木和彦氏(電気通信大)

「鉄系超伝導体の電子状態とペアリング機構」

鉄ニクタイド超伝導体の電子状態と超伝導発現機構について、主として理論的側面からレビューを行う。特に、スピン揺らぎが媒介する非従来型超伝導の可能性に焦点を当て、臨界温度や超伝導ギャップの物質依存性の起源についても述べる。また、高温超伝導体の「先輩」である銅酸化物との比較についても言及する予定である。

14:40~15:40 石田憲二氏(京都大学)

「鉄系超伝導体における磁性と超伝導」

鉄系超伝導体における重要な問題として磁気励起と超伝導の関係がある。核磁気共鳴(NMR)から考えられる低エネルギー励起と超伝導の関連について1111系と122系を中心として紹介する

15:40~16:00 山田和芳氏(東北大学)

まとめ: 中性子で何を研究すべきか?

東北大学金属材料研究所では今年度から中性子物質材料研究センターが立ち上がりましたが、センターでは中性子の利用分野を広げ、先端的中性子利用を目指して、基礎から応用にいたる広い分野について定期的にセミナーを開催させていただきます。多くの方々のご参加を御願いたします。